

3つのポリシー(外国語学部国際日本学科)

建学の理念	「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。
大学の教育理念・方針	・言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。 ・他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。 ・言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。
学部(学科)の人材養成目的	(外国語学部) 高度で実践的な言語運用能力の構築を行うのみならず、諸外国・地域に関する知識、言語・文化・歴史・宗教等を異にする人々との共生を志向する国際感覚、豊かな専門知識と幅広い視野を兼ね備えた人材の育成を目的とします。 (国際日本学科) 高度で実践的な英語運用能力を獲得したうえ、日本語・日本語教育・国語教育および日本文化・社会に関する専門知識、ならびに豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を併せ持ち、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的とします。 （１） 国内での企業や地域コミュニティにおいて、外国人との共生を促進するために、高度な英語運用能力と日本語・日本語教育・国語教育および日本文化・社会の知識に根ざした豊かな国際感覚を兼ね備えた人材 （２） 日本語（国語）を教えるために、高度な英語運用能力と日本語・日本語教育・国語教育の専門的な知識と実践力を兼ね備えた人材 （３） 日本の伝統文化や現代文化等を国内外の外国人に伝え広めるために、高度な英語運用能力と日本の文化・社会について深い知識と発信力を兼ね備えた人材
学位授与の方針(DP)	本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士（国際日本）」の学位を授与します。 １． 英語・日本語および言語学に関する教育を通して、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力など、国際社会に貢献できるレベルの言語運用能力を身につけている。 《知識・理解/汎用的技能》 ２． 日本および諸外国の文化・社会・歴史等に関する深い知識を身につけている。 《知識・理解》 ３． 日本の文化・社会・言語に関する教育を通して、日本文化の価値ある情報を発信できる能力を身につけている。 《知識・理解/汎用的技能》 ４． 多様な文化的背景を持つ学生等との交流や海外留学等を通して、異文化理解力、高度な国際感覚を身につけている。 《汎用的技能/態度・志向性/総合的な学習経験と創造的思考力》
教育課程の編成・実施の方針(CP)	〔教育課程の編成にかかる基本方針〕 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力などを修得できるように、教育課程を専門教育科目（主要授業科目）と全学共通教育科目に区分し、基礎から発展、完成へと卒業まで順次的・体系的に編成し、学修・教育、評価を行います。 １． 教育内容について （１） 専門必修科目では、英語の４技能を伸ばし、専門分野の英語文献を正確に理解し、英語による表現力の向上をめざします。併せて、日本の文化・社会および日本語（国語）に関する知識の深化を促します。 （２） 専門選択科目では、日本および諸外国・地域の文化・社会・歴史等に関する知識の深化を促すとともに、異文化理解力、柔軟な国際感覚、英語および日本語（国語）による情報収集力・発信力の獲得をめざします。 （３） 全学共通教育科目では、幅広い教養を獲得するとともに、キャリア意識の形成を促します。 ２． 教育方法について （１） 専門必修科目では、学修コーディネーションコミッティの下、Content-Based Instruction（内容重視の教授法）を用いた英語学修を行います。 （２） 専門必修科目の英語関連科目では、外部試験による客観的な指標により少人数クラス編成を行い、各自のレベルに応じた英語学修を行います。 （３） 専門必修科目の「国際日本基礎演習」では、基幹となる「日本学」を理解するために、日本語学、日本の文化・社会について少人数教育にて学修します。 （４） 専門選択科目の日本の文化・社会、異文化理解力を深める科目では、主体的に学ぶ力を高めるために、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブラーニング型授業を展開します。 （５） 専門選択科目の日本語・日本語教育関連科目では、高度な専門知識の学修の上で、日本語教育実習を展開します。 （６） クラスアドバイザー制により、順次的・体系的に学修が行えるように支援ならびに指導を行います。 （７） 留学先大学での学修を通して、幅広い知識と柔軟な国際感覚の修得のため、本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を促します。 ３． 学修成果の評価について （１） 学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。 （２） 単位修得科目、留学、就業体験、異文化理解等のためのボランティアの体験、外部試験の成績、およびクラスアドバイザー による面談記録などの学修ポートフォリオにもとづき、４年間の学修成果をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 （３） 長期留学にかかる英語力については、TOEFL などの英語外部試験の客観的な指標を設け、学修成果を検証します。

3つのポリシー(外国語学部国際日本学科)

入学者受入れの方針(AP)	本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。 1. 求める人材像について 高等学校までの学習・活動を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、 (1) 基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人 (2) 実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、日本の文化・社会および日本語・日本語教育・国語教育に対する知的探求心や発想力を養い、グローバル社会において柔軟な国際感覚を身につけようとする積極的な姿勢や情熱を持つ人 (3) 日本の文化・社会および日本語・日本語教育に関して積極的に学び、理解して、国内外の留学生、外国人就労者や外国人児童に対して、積極的に日本語による支援ができ、グローバル社会で活躍できるキャリア形成をめざす強い意志を持つ人 2. 評価方法について 上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。 (1) 一般選抜 ア. 一般入試 ① 1科目型： 個別学力検査（外国語）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜するため、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。〔前期：S方式/後期〕 ② 2科目型： 個別学力検査（外国語、国語、地理歴史）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜するため、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。〔前期：A方式/B方式〕 ③ 3科目型： 個別学力検査（外国語）と大学入学共通テスト（選択2科目）により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜するため、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。〔前期：共通テストプラス方式〕 イ. 大学入学共通テスト利用入試 ① 2科目型： 大学入学共通テスト（英語、選択1科目）の得点により評価します。〔後期〕 ② 3科目型： 大学入学共通テスト（英語、国語、選択1科目）の得点により評価します。〔前期〕 ③ 5科目型： 大学入学共通テスト（英語、国語、選択3科目）の得点により評価します。〔前期〕 (2) 学校推薦型選抜 ア. 公募制推薦入試 基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜するため、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。〔前期/後期〕 イ. 指定校制推薦入試 書類選考、口頭試問(面接)を総合して評価します。 (3) 特別型選抜 ア. 特技入試 書類選考、小論文、口頭試問(面接)を総合して評価します。 イ. 社会人入試 書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。 ウ. 帰国生徒入試 筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。
---------------	--

2024年4月1日施行(2024年3月1日制定)
2025年4月1日施行(2025年3月31日改定)